

2019年09月17日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【中東情勢の緊張】

報道によると、9月14日に、サウジアラビアの石油施設が攻撃を受け、サウジアラビアの産油量の約半分に当たる日量570万バレルの生産が停止した。

9月16日の時点で、関係者の話として、全面復旧には数か月かかる可能性がある、と報道された。

この中東情勢の緊迫化で、原油価格が急騰している。

サウジアラビアの供給が、長期にわたり滞るならば、原油価格は、高止まりする可能性も高い。

日本は、原油輸入の4割弱をサウジアラビアに依存しているようだ。

日本にとって、原油価格の高騰も悪影響があるのだろうが、仮に、サウジアラビアからの原油輸入量が減少するのならば、それに代替する輸入先を確保することも必要になるだろう。

この中東情勢の下では、さまざまな難しい点もあろうかと思う。

そして、トランプ大統領は、「サウジアラビアの石油施設への攻撃に、イランが関与した可能性が高い」と指摘している。

「過去のイラクの大量破壊兵器」の例もあるように、こういった情報は、鵜呑みにできない。

確たる証拠を示す必要がある、と考える次第だ。

しかしながら、トランプ大統領の発言から、米国とイランの関係が、一段と悪化していることは事実であり、十分に、留意する必要がある、と考えている。

すぐに戦争に直結するとは限らないが、トランプ大統領が、イランをけん制していることは事実であり、非常に「きな臭い」ことは、現実の出来事として認識する必要がある。

当面のところは、「原油価格が高止まりする」と判断して、相場に臨むべきだ、と考えている。

現時点では、トランプ大統領が、これからどのような行動に出るのか、全く想像が付かない。

だから、米国とイランの関係にも、最大限の注意を払いたい、と考えている。

+++++

(2019年09月17日東京時間15:00記述)